

グローバルな認識とローカルな実践
ーフランスの日本語教育の視点からー
Global Ideas and Local Practices :
perspectives of Japanese Teaching in France

パリ・ディドロ大学

東アジア文化言語学部日本研究学科

大島弘子

グローバルな考え方が基本理念として素晴らしいものであっても、それをローカルな場面でそのまま実践しようとする、色々な軋轢が生じ、その折り合いをどうつけるかがそれほど簡単ではないことが明らかになるというようなことは、色々な分野に共通した現象と思われるが、本発表では、グローバル化の中でのフランスの日本語教育という視点からの分析を試みたい。

具体的には、「外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠(CEFR)」と、その2018年に出たCOMPANION VOLUME WITH NEW DESCRIPTORSを基に、語学教育の基本理念となっているヨーロッパにおけるグローバルな考え方を概観する。そして、その基本理念を基にして作成されたフランスの中等教育の語学教育のカリキュラムの特色を見る。その上で、今現在進んでいる2020年のバカロレア改定と、その裏付けとなっているグローバルな考え方を概観し、そしてそれにより高校の日本語教育がどのような影響を受けるか考察する。